講座⑪ 現代の関西美術界

第1講義	現代美術を取り巻く世界

今後の5回をより深く味わうための入り口として、現代美術の基本的な特徴や歴史的背景、作品をとりまく世界をわかりやすく解説します。モダニズムからデジタルアート、ビエンナーレや地域芸術祭など具体的な事例を紹介しながら、現代美術が私たちの社会や文化とどのように関わっているのかを紹介します。また、作家の作品を通じて、現代美術が問いかける多様な価値観や社会課題にも触れます。初心者の方にも親しみやすく、「わからないのに気になる」と言われる現代美術をより面白く感じていただけたらと思います。

第2講義	画家としての歩み-波乱と出会い、喪失と再生の色「青」

本格的に絵を描き出して半世紀近く、画家を目指す事を決めるまでも決めてからも、色々な波乱があり、職業を「画家」と言えるまでの道のりは平坦ではありませんでした。その中で出会い（絵や人との）に導かれて来た事、色の中で私が一番多く使う『青』が持つ意味など、長年のエピソードと共に語り、絵や創作が人にもたらす素敵な力について、古い作品から最近作までの画像も見て頂きながら考えて頂きます。

第3講義	大阪が生んだ、女性写真家の草分け　山沢栄子

戦前に単身渡米して写真技術を学び、芸術的なポートレートで独自の地歩を育んだ大阪出身の山沢栄子（1899～1995年）。61歳で商業写真から抽象写真に転じ、撮る写真でなく、創る写真を追求。山沢にとって抽象世界の表現は、アメリカで学んだモダニズムの感覚が表現できるテーマだった。本講座では、卓越した人物の描写力から、抽象作品（アブストラクト写真）に移行する過程を紹介しながら、山沢栄子の人となりと作品について説明させて頂きます。

第4講義	私が関わったGUTAI「具体美術協会」の作家たち

関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954～1972年）は、18年間という長い期間にわたって、先鋭的な表現を追求してきました。「具体」は、屋外、ホール舞台、美術展示場などで実験的な「具体展」を開催しました。今回、私が美術館で採り上げた元永定正、上前智祐、堀尾貞治らを中心に、穏健なモダニズムの枠を超えた型破りな絵画やパフォーマンスなどを説明致します。

第5講義	西洋美術の価値観の変遷と関西の現代美術動向

現代美術を理解するためには、ルネサンスから20世紀までの西洋美術の価値観の変遷を知ることが重要です。特にフランス革命以降の近代から大きく美術の価値観が変わり、20世紀初頭には多様な主義主張の美術が誕生します。20世紀末には多文化主義となり西洋美術の価値観だけでは語れないアートが登場します。このような世界の動向に影響されながら日本の現代美術も展開してきました。美術館、アートセンター、国際芸術祭、アートフェア、アーティストなど、近年、関西ではどのような美術動向が生まれてきたのかを紹介します。

第6講義	欧州留学の後、文楽絵画を描くようになった自分史

①文楽に魅せられた私が、文楽人形絵を描くようになった経緯
②かんたんに文楽についての説明
③先代吉田玉男師匠から文楽絵を描く際に頂いたアドバイスや人生訓
④文楽の魅力の素晴らしさを次の世代に、継承していく想い